

KYB NEWS

アジアクロスカントリーラリー2018 KYBとTEAM JAOSの挑戦

今年で23回目となるアジアクロスカントリーラリー2018(以下 AXCR)が2018年8月12日(日)より7日間、タイ王国及び、カンボジアにて開催されます。昨年に引き続き「TEAM JAOS」のコ・ドライバーとして、KYB株式会社(以下 KYB)社員である田中一弘が参戦します。また「TEAM JAOS」と共同開発したクロスカントリーラリー用のショックアブソーバを参戦マシンであるトヨタハイラックスに搭載、「TEAM JAOS」とともに表彰台を狙います。



アジアクロスカントリーラリー2018参戦マシン

＜KYBおよび「TEAM JAOS」共同開発クロスカントリーラリー用ショックアブソーバ特徴＞
★ハイドロバンパクションを搭載し悪路走破性を高めると共に、DLCコーティングをピストンロッドに施し低フリクション化を図り、高いドライバーズビリティを実現。更に強度・剛性を向上させ耐久性を確保した。



共同開発クロスカントリーラリー用ショックアブソーバ

■ ドライバー紹介

能戸 知徳(ドライバー)



1999年に陸別道新オフロードバトルに参戦してドライバー人生をスタートさせた。18歳でパドック入社、営業と開発を担当しながらもレース活動を継続し、AXCR2006ではジャオス・赤星社長と組みパジェロで完走。翌年の同大会で総合4位(日本人最高位)を獲得。ジムニスーパートリアルチャンピオンシップ北海道DV3年連続シリーズ優勝するなど若干30歳にして輝かしい経歴をもつ。AXCR2015ではメカニックとしてTEAM JAOSを支え、同年12月にジャオスに入社し、AXCR2016にチームドライバーとして参戦し総合5位入賞。2017年に引き続き、2018年もドライバーを担当する。

田中 一弘(コ・ドライバー)



2001年KYBに入社。自動車メーカーからアフターパーツ、そしてモータースポーツまで幅広いショックアブソーバの設計経験を持ち、AXCR以外の国際ラリー用ショックアブソーバの開発実績もある。AXCRには2015年、2016年の2年間TEAM JAOSのKYB製ショックアブソーバの設計を担当し、サービスクルーとしてレースサポート。自ら設計したショックアブソーバのよりリアルなデータを収集するために2017年は初めてコ・ドライバーとして挑戦。現場で得た生のデータを製品開発へフィードバックする。

■ 問合せ先

KYB 株式会社 経営企画本部 広報部長 前山 宣則 Tel03-3435-3552

以上